

Title	天野正輝先生の御退官によせて
Author(s)	やまだ, ようこ
Citation	教育方法の探究 (2002), 5: i-ii
Issue Date	2002-03-31
URL	https://doi.org/10.14989/190268
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

天野正輝先生の御退官によせて

やまだ ようこ

天野正輝先生、御退官おめでとうございます。先生が長年のあいだ京都大学大学院教育学研究科、教育方法学講座でなさってこられた真摯なお仕事に心から感謝するとともに、ささやかながら本誌を天野先生の御退官記念号として、お贈りしたいと思います。

天野先生は、ご紹介するまでもなくご自身の専門分野にかかわる教育課程論や教育評価論では日本を代表する研究者として幾多のご業績をあげられ、研究に関しては静かで厳しい情熱をそそいでこられました。そして教育に関しては院生や後輩を見守るまなざしにわたかさがあふれておられました。また、大学院教育学研究科と教育学部において重鎮として評議員などの要職を歴任され、幾多の困難な難局を乗り越えるお仕事をされてこられました。教育学研究科の大学院重点化に力をそそがれ、新しい教育方法学講座を創ってこられ、そして、この「教育方法の探求」の産みの親でもあります。

このごろは昼休みに散歩する余裕もない生活ですが、私と田中先生が京大に赴任したころには、3人で桜の咲く吉田山の山頂で一緒にお弁当を食べました。近くの真如堂で合宿したときにも、一緒に桜を見ました。先生は植物がお好きで、よく木や花の名前をご存じでした。また、竹久夢二の絵がお好きで、そのほのかなロマンは、先生がもっておられる情緒によく似合っていると思いました。そのときから私の心には、ほんのりした桜色のあたたかい先生のお姿がぼっと灯り、あれからから何かあれば天野先生のお部屋に伺うことになって今日まで参りました。先生にお聞きすれば、生き字引のように何でもわかるという安心感がありました。それで、これから先生がいらっしゃらない「教育方法学講座」はありえるのだろうか、とても想像さえできないのではないかと不安に思い、先生の存在の大きさを今さらながらに噛みしめております。

天野先生は、みなさんがご存じのように、いつも慈父のような微笑みを浮かべておられ、その笑顔に励まされてきた人々は、どれだけいるかわからないことでしょう。大学の激動期にあって、御停年のぎりぎりまでご多忙な要職でいらした先生が、どんな難局に立ってもいつも変わらない

静かな面もちでいらしたお姿、そのお姿を尊敬の念とともに、心のなかにしっかりと刻んでおこうと思っております。

天野先生、どうぞ、これからもお身体をお大切に、お元気でご活躍ください。そして京大の教育学研究科と教育方法学講座をこれからもご指導くださり、未来の発展を見守ってくださいますようお願い申し上げます。

(教育方法学講座教授)